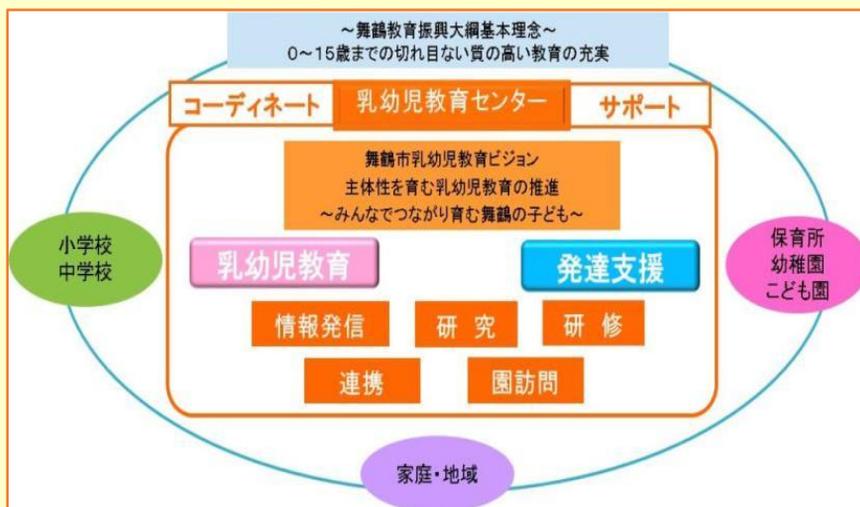


舞鶴市は乳幼児教育に力を入れています

舞鶴市では、平成28年度から30年度文部科学省「幼児教育の推進体制構築事業」において研究等を行った成果を受けて、府内初となる「乳幼児教育センター」を設置（平成31年4月）しました。本センターでは、地域や家庭、保育所・幼稚園・認定こども園等の保育者や小中学校の教員みんながつながり、舞鶴の子ども達を大切に育てていくためにサポート・コーディネートしています。



0歳から就学前の乳幼児期の教育・保育について示した「舞鶴市乳幼児教育ビジョン」にもとづいて、質の高い乳幼児教育を目指しています！

舞鶴市 乳幼児教育ビジョン 主体性を育む乳幼児教育の推進 ～みんながつながり育む舞鶴の子ども～

主体的に
取り組む
子ども

自分も
友達も大
切にする
子ども

意欲的に
遊ぶ
子ども

乳幼児期の子ども達に、主体性と自己を肯定する
ところを育むことを大切にしています

市内の保育所・幼稚園・認定こども園では、子どもの姿を写真や言葉で記録し、遊びの中の子どもの育ちや学びが見える（可視化）ようにし、保護者の皆様に発信するドキュメンテーションを書いています。子どもは、ただ遊んでいるだけではなく、遊びを通じて友達や環境（様々な人や物）と関わりながら、気付いたり、考えたり、試したり、比べたり、工夫したりして学んでいます。子どもが意欲的に、主体的に、夢中になって遊ぶ姿をドキュメンテーションでご紹介します。



ここにつけよ!

制作遊びの始まりということもあり、衣装としっぽの型は保育者が準備し、飾りは子ども達が自由にできるように折り紙やシール、すずらんテープを準備し、セロテープやハサミなど衣装作りに使えそうなものをワゴンにまとめておきました。

恐竜が大好きで、いつも恐竜のように歩いたり、ビールケースで恐竜博物館を作って遊んでいたTくん。何人か集まって一緒に遊ぶのですが、どこか盛り上がり欠ける様子が見受けられました。そこでこの『恐竜ごっこ』がもっと盛り上がり、なりきって遊べるようにと、恐竜の衣装を作ってはどうかと提案をしてみました。

作っていく中で『こうしたい』という思いが生まれ、作る楽しさを味わいながら、恐竜ごっこへの期待も高まっていきました。



がお〜!!
きょうりゆうだぞ〜!!



どんな恐竜になるか
楽しみやな〜!

みて〜!
きょうりゆうなった♪



作る様子を興味津々で見ていた子達が「わたしもしたい!」「ぼくもきょうりゆうなる!」と衣装作りがクラスに広がっていきました。衣装が出来ると「おしえたげよか?」と制作途中の友達に声をかける姿も見られました。

中には「おめんつくる!」と恐竜のお面を作り始める子も! 衣装作りをしているうちに、恐竜ごっこへのイメージがどんどん膨らんでいきます。



いっしょにもって!

【恐竜の家作り】

おっけ〜!

きょうりゆうが
ねるとこにしよう!



【恐竜ファッションショー】

もっとかわいくする♪

かわいい〜!

家作りでは、園庭にあるビールケースや丸太、ベニヤ板を使い、作っていきます。また園庭の自然物を使ってままごと遊びをしていた子達も『恐竜ご飯』『恐竜ジュース』を作って一緒に遊ぶようにもなりました。

衣装作りでは、ワゴンに準備された素材だけでなく、制作ルームや保育室の制作コーナーから廃材や拾ってきたどんぐりなどの自然物を使ってさらに飾りつけていき「おきゃくさんにみてほしい!」と口にする姿も見られました。



ただ着て遊ぶだけでなく、他児にも見てもらおうと、頑張りを認めてもらい、完成させた達成感を味わえるようにしました。またひとりひとりが主役になれる場が持てるようにしました。



【葉っぱ恐竜作り】



昨日は恐竜のどこまでできた？
あと何が足りないかな？



これあしになる！



しっぽはひろった
はっぱいれよ～！



きょうりゅうに
なってきたで！



ここはっぱないから
えのぐぬっとこ！

葉っぱを段ボールに貼って遊んでいたところ「きょうりゅうになるんちゃう？」というAちゃんの一言から恐竜作りが始まりました。「まだつくってないからあしたしよ！」「きょうのこれはわたしがつくったんやで！」と何日もかけながらみんなで少しずつ作っていきました。

【恐竜屋さん作りの始まり】



年長クラスのお店屋さんごっこで遊ばせてもらったことがとても楽しかったようで「やりたい！」という声が上がりました。



おきゃくさん
よろこぶかな？

毎日の振り返りにて、制作過程やまだできていない部分などを子ども達に問いかけ、確認することで制作意欲や完成への期待が持てるようにしています。

「みんなが自分で作れるものって何？」と聞くと「きょうりゅうのふくらつくれるで！」と自信満々に答え、今までは自分のために作っていた衣装を今度はお客さんのために、相手が喜ぶ服を作るといった目的で作ることにになりました。また家から「くるまでうりにいくやつつくってきた」と移動販売車の部品を作ってきたTくんから、恐竜焼きとそれを売る移動販売車作りが始まりました。そして「おへやおみせつくる！」「ものかうときはおかねいるで？」とお店作りやお金作りに広がっていきました。

任せるね！
難しいところは
手伝うから言てね！

おかねってるで
すうじがかいてあるで！



くるまは
ぼくがつくるでな！



よく見てるね！

おみせのだい
ここにならべるで



もっといてあげるで
ここにはりな♪



恐竜の衣装作りや家作りでは、どんなふうにしようか考え、自由に形にしていく【思考力の芽生え】【豊かな感性と表現】が育っていき、園庭の自然を活かしながら遊ぶ姿は【自然との関わり 生命尊重】に繋がっています。自分の思いを相手に伝えようとしたり、イメージを共有しながら一緒に遊びを広げていこうとしたりする姿からは【言葉による伝え合い】【共同性】も見られるようになっていきます。また自分が作りたいと思ったものを自分で完成させたいという【自立心】が芽生えてきている姿も見られます。お店作りでは、普通の生活で経験している『買い物』を思い出してお店を作っていくという様子から【社会生活との関わり】が見られ、お金を自分達で作ることで【数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚】に繋がっています。

幼児期の終わり
までに育て
ほしい10の姿

健康な
心と体

自立心

協同性

道徳性・規範
意識の芽生え

思考力の
芽生え

社会生活
との
関わり

自然との
関わり
生命尊重

数量や図形、
標識や文字
などへの
関心・感覚

言葉に
よる
伝え合い

豊かな
感性
と表現

玩具を注射に見立てて遊ぶ姿が見られたことから、保育者が注射器と聴診器を作ってみると、早速病院ごっこが始まりました。



病院に行ったことがある経験から、病院の先生になりきって上手に再現遊びをしたり、友だち同士でも関わりながら簡単なやりとりを楽しむ姿が見られました。これからも子どもたちの言葉を拾いながら病院グッズを増やしたり、一緒にやりとりを楽しんだりして遊びを広げていきたいと思ひます。



メガネや聴診器、体温計、ばんそうこう、薬など病院グッズが増えていき、登園すると「病院の取って」と毎日病院ごっこがはじまります。

そして医師来園の内科検診の日。「もうすぐしたら2階にお医者さんが来るよ」と声をかけると子どもたちから「お医者さんしたい」「つける!」と声が聞こえ聴診器をつけたり注射器を持ったりとお医者さんと同じ格好をして内科検診を受けました。



クラスの中でお医者さんごっこが流行っている中、先生になりきった姿でお医者さんに会えて、ちよっぴり恥ずかしそうでした。そのあとは、聴診器を持って「おなか見てもらった」「ポンポン見てもらった」と満足して話す姿が見られたり、先生の真似をしてお友だちの背中を見てあげたりと子どもたちの言葉やアイデアからどんどん広がっていった病院ごっこ。生活や遊びの中での出来事を通して、イメージを豊かにして『言葉による伝え合い』や『豊かな感性と表現』が育ててきています。

阪神タイガース好きの2人の女の子がバットやボールを作って園庭で遊んでいた事がきっかけとなり、クラスの男の子数人が野球に興味をもちグローブ作りが始まりました。そしてヘルメット・帽子・ボール・ユニホーム・プロテクター・レガース・キャッチャーマスク作りなど全員に広がっていきました。



どうしたら
手が入ると思う?

指を動ける
ようにしたい



綿どれくらい
いれたらいい?

グローブを作ろうとしていましたが、自分の手が入るように作るのは難しかった子どもたち。「どうしたら手が入ると思う?」と保育者と一緒に考えました。画用紙に手を置き指の形を鉛筆でなぞって切っていきます。そして、あと1枚同じ大きさが必要な事に気がきましたが、切る事が難しく「2つ一緒に切ったらいいんや」と考えたり、「手が痛いから何か入れたい」など発見や様々な工夫が見られました。



作り終わったら園庭へ出かけ野球の試合が始まりました。ルールを知っている子がベースの代わりにマットを出してきてゲーム開始。打った後に走る事やピッチャーやキャッチャーなどの役割を友だちに教えてあげる姿も見られました。また、ピッチャーは何回で交代するなど自分たちでルールも決めています。



ボール見て打ってよ
打ったら走って



クリスマス発表会

子どもたちと何をやりたいか聞いてみると、今流行っている野球という声があり、クリスマス発表会「うらしまたろうさくらぐみバージョン」を披露しました。ナレーション役がアナウンスしたり、打てるまでみんなで応援してあげたりと全員一丸となって取り組みました。



がんばれー
かっ飛ばせー Rくん
優しく投げ
てよ

野球の遊びを通して、自分のイメージした事を形にできるよう、友だちに教えてもらいながら自分なりに考え、気付き、工夫するなど『思考力の芽生え』につながっています。また、お互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的に向けて考えたり、工夫したり、協力したりする楽しさや充実感を味わいながらやり遂げるようになる『協同性』や自分が経験した事や考えたことを言葉で伝えるなど『言葉による伝え合い』の力が育ってきています。

幼児期の終わりまでに育てたい10の姿	健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	思考力の芽生え	社会生活との関わり	自然との関わり 生命尊重	数量や図形、 標識や文字 などへの 関心・感覚	言葉による 伝え合い	豊かな 感性と表現
--------------------	--------	-----	-----	--------------	---------	-----------	-----------------	----------------------------------	---------------	--------------

散歩で共楽公園に行った時に、様々な模様や形の石を見つけて持って帰ってきました。持って帰った石を落ちないように積んでみたり、「ケーキみたいや!」と言ってマジックで色を塗ってみる等の姿が見られたことから、石の図鑑と海辺の石を部屋に準備してみました。



見て!
この石、面白
白い。

海の石積み

こっちの丸い石は、そ〜っと乗せなあかんのやし。

だって、グラグラするもんな。



平べったいやつは簡単やし。

丸いのは難しいんやな。

これはあんまり回らんなあ。

やっぱり丸いと回らんちゃう?

石コマ
すごい小っちゃいと回らんしな。



何ですごい小っちゃいと回らんの?

だって、でっかいのにぶち当たったらすぐ止まるしな。

これまでの経験により、形によって積みやすい石と積みにくい石があることを知っており、形に合わせた積み方の工夫や力加減をして、“高く積もう” “難しい積み方をしよう”と目的を持って積もうとする姿が見られます。

【思考力の芽生え】

“どんな石がよく回りそうか”考えたことや、“一緒に回したらどうなるか”想像したことを伝え合う姿が見られます。【言葉による伝え合い】 予想→結果→不思議を楽しみながら、意欲や探求心を育てています。

石アート

石を組み合わせて、〇〇みたいと生き物を表現して遊び始めました。

「目をつけたら、もっと魚みたいになるんちゃう?」という声が上がリ・・・



～潮吹くクジラ



～電車～



～蜘蛛

魚ってどんなところにおるんかいなあ?

海やで!

海の中やし、海にしたらしいやん。



忍者の服作ったやつで海にしたら? つるつるやし。

石の模様や形に注目することで“〇〇みたい” “〇〇と〇〇を合わせたら〇〇みたいになる”と身の回りの物や生き物を表現する姿が見られました。また、それらしさを追求し、足りないものを補ったり素材を特徴から選ぶなど、表現の仕方を工夫しています。

【豊かな感性と表現】

数日、石で遊ぶうちに、庭や散歩先に落ちている石と、保育士が持ってきた海の石の違いを不思議に思う子が出てきたことから、おしゃべりタイム(振り返り)の中で、何が違うのが気づいたことを出し合うことにしました。



うみのいし



- 「つるつるしているよ」
- 「すべすべしているよ」
- 「おおきくておもたいのがいっぱい」
- 「いろんないろのいしがあるよ」

きょうらくこうえんのいし



- 「ざらざらしているよ」
- 「とんがっているよ」
- 「ごつごつしているよ」
- 「いろんないろのいしがあるよ」

気づきを出し合ううちに「なんで海の石はつるつるなんかなあ？」という声があがり・・・

考えたり調べたり、お家の人に聞いてみたりすることになり、再びおしゃべりタイム(振り返り)で共有しました。

波でコロコロ転がって丸くなるんや。



波がザッパ〜ンってなって、ゴツゴツが削れてつるつるになったんや。



波で砂とか石がとれて、つるつるになったんちゃう？



その後、旧浄水場跡地に散歩に出かけました。そこは山の中腹にあり、海や自衛隊の船がよく見える大変景色の良い所です。これまでの石プロジェクトの経験から石に興味を持っていた子どもたちが石探しを始めました。

ほら見て！丸い石があった。

ほんとや、丸いなあ〜。



わかった！あんな、日本はすごい昔の恐竜がおった時、海やったんや。だから丸い石がここにあるんやし。

えっ？海があったん？

えっ！すごいつるつるしとるやん。

何でつるつるしとるんやろな〜？



そうやで、海の下やったんや。

だからこの石もつるつるなんや。

これまでの経験により“山にあるはずのないつるつるの石がなぜあるのだろうか？”と疑問に思い、以前父から聞いた“日本は昔、海だったこと”と“海の石はつるつるしている”という知識や情報を組み合わせて伝え合いながら、みんなて思考する姿が見られました。【自然との関わり・生命尊重】

今回紹介した以外にも、石の町作りや石の重さ測り・強さ比べなど、3か月に渡り様々な展開や盛り上がりを見せました。子ども達は遊びや生活の中で様々な面白いこと、不思議なことに出会います。それがクラスのプロジェクトのテーマとなり、考えたり、試したり、調べたりを繰り返しながら知識や体験を深めていきます。今後も好奇心や探究心をくすぐる環境や素材を準備し、遊びを通して、考える力、話し合う力、協同的に学び力を育てていきたいと思っています。

幼児期の終わりまでに育ててほしい10の姿

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

思考力の芽生え

社会生活との関わり

自然との関わり
生命尊重

数量や図形、
標識や文字
などへの関心・感覚

言葉による
伝え合い

豊かな感性
と表現